

2017年度大学入試センター試験 解説〈倫理〉

第1問 青年期・現代社会分野

問1 正解は①。

- ① SOLとは、生命の尊厳を絶対視し、いかなる人の命であれ絶対的に価値があるとする伝統的な医療倫理である。したがって命を途中で終わらせる尊厳死や安楽死には反対の立場ということになる。
- ② QOLとは、生きるに当たってどれだけ「人間らしさ」を保てるかを示す指標である。「人間らしさ」についての捉え方は人それぞれなので、この考え方では、患者の意向が何より重んじられる。
- ③ SOLを重視するならば、治療を進めることしか選択肢がないので、患者のリヴィング・ウィルを考慮する必要はないということになる。
- ④ QOLを重視するならば、各人が人間らしく生きられるということが何より大切であって、生命そのものに絶対的な尊厳は認められないということになる。

問2 正解は④。

- ア 正文。日本の精神分析学者・小^{おこのぎ}此木啓吾は、大人への準備期間としての「モラトリアム」をいつまでも続けようとしてしまう現代人の心理を「モラトリアム人間」と呼んだ。
- イ 誤文。20世紀フランスの歴史学者アリエスは、著書『〈子ども〉の誕生』のなかで、大人と明確に区別された「子ども」という概念は西洋近代の産物であるとして、それ以前には子どもは「小さな大人」として扱われていたと主張した。
- ウ 誤文。青年期を「マージナル・マン」と呼んだのはレヴィン。アドラーは、個人心理学という分野を確立した心理学者である。

問3 正解は⑧。

- ア 「春」, 「ヴィーナスの誕生」などの作品を描いたのは、ルネサンス期に活躍した画家ボッティチェリ。セザンヌは、ポスト印象派と位置づけられる19世紀フランスの画家。
- イ 山水図などで知られる水墨画の大成者は、室町時代の禅僧・雪舟。尾形光琳は江戸時代に活躍した画家で、装飾性の豊かさが特徴である。
- ウ 「ゲルニカ」は、ナチス・ドイツがスペインのゲルニカを空襲したことに抗議してピカソが描いた大作。ゴッガンは、セザンヌ同様にポスト印象派を代表するフランス

の画家で、「われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこに行くのか」などで有名。

問 4 正解は④。

- ④ 防衛機制のうち**逃避**とは、なすべき事柄を避けたいという無意識によって現れる現象。登校したくない子どもが、登校時間が近づくとつれ腹痛を起こすなどは、この例。
- ① 防衛機制のうち**反動形成**の例。
- ② 防衛機制のうち**代償**の例。
- ③ 防衛機制のうち**合理化**の例。

問 5 正解は③。

- ③ 40 歳以上の各世代では、四つの項目のうち**ア**(電子メールの送受信)だけが 50%以上なのだから、この世代のインターネット利用者の半数以上が電子メールを利用しているのは明らかである。
- ① 「2 番目に低い」と「3 番目」についての記述は、それぞれ 50 歳代と 60 歳代で誤っている。したがって結論についての記述もおかしい。
- ② **ア**と**エ**の数値の差が世代とともに大きくなるという記述は誤っており、また仮にこれが正しいとしても、そこから結論のようなことは導けない。
- ④ 30 歳以上の各世代で**イ**と**ウ**の数値が**エ**の 2 倍以上という記述は誤っており(30 歳代)、また仮にこれが正しいとしても、そこから結論のようなことは導けない。

問 6 正解は③。

- ③ 資料文の前半では、平等の度合いが強まるにつれて、人々が小さな不平等にも耐えがたくなるという傾向を指摘しており、後半では、このときに人々が市民の上に立つ強力な 1 人の権力者を是認しがちであるということを指摘している。トクヴィルは、ここで民主社会が独裁のような事態を招きがちであるという事態を指摘している。
- ① 「自分と異質な人を憎悪して視野から排除するようになる」が誤り。憎悪の対象は「異質な人」ではなく同等の市民であるにもかかわらず特権を持つ者であり、またそうした人を「視野から排除する」とも書かれていない。
- ② 「自分以外の人が自分と同等であることを憎悪する」が誤り。同等なはずであるにもかかわらず、特権がある者のことを憎悪するのである。
- ④ 「自己と同等の人だけを自分の隣人として認めるようになり」が誤り。同等な人のなかにも特権者がいるので、そうした人たちが憎悪と嫉妬を買うことになる。

問7 正解は②。

- ② 持続可能な開発の理念においては、開発の必要性を認めつつ、それが将来世代のニーズを損なうことのないようにすることが重要だとされる。
- ① 持続可能な開発の理念は、必ずしも現在世代の欲求を抑えたり経済成長の維持を目指したりするわけではない。
- ③ 世代間倫理の考え方は、現在世代が将来世代に責任や義務を負うべきというものであって、将来世代が現在世代に責任や義務を負うべきというものではない。
- ④ 世代間倫理の考え方は、現在世代が将来世代に責任を負うべきというもの。

問8 正解は⑥。

- a キルケゴールが求めた人間のあり方は、神とただ1人で向き合う「単独者」。「超越者」は、ヤスパースが述べた限界状況において人が出会う包括者のこと。
- b ファシズムを支えた精神的基盤を探究したフランクフルト学派は、自分より下位の者には抑圧的となり、上位の者には従属しようとする大衆の「権威主義」的な性格がファシズムの背景にあると指摘した。
- c オランダの歴史家ホイジンガは、人間をホモ・ルーデンス(遊戯人)と呼び、「遊び」のなかに人間の文化を生み出す根源があると考えた。「工作」を重んじるのは、人間をホモ・ファーベル(工作人)と呼んだベルクソン。

問9 正解は②。

- ② アメリカのジャーナリスト・リップマンは、著書『世論』のなかで、人々がメディアによってつくられるイメージをステレオ・タイプとして受け入れるようになるため、世論操作の危険性が高まることを指摘している。
- ① 20世紀フランスの思想家・ボードリヤールは、現代消費社会では、人々がモノをその「有用性」において消費するのではなく、他者と自分の差異を際立たせるといった目的のために「記号」として消費するようになっていると指摘した。
- ③ ブーアスティンは20世紀アメリカの社会学者。メディアが視聴者に「本当らしい」出来事を提供しているにすぎないという記述は正しいが、視聴者がそれに「関心をもたなくなっている」という点が誤り。
- ④ カナダ出身の英文学者・マクルーハンは、情報の内容ではなく情報の伝達手段が人間の思考や社会に影響を与えるとして、「メディアはメッセージである」と述べた。映画やテレビなどの弊害を訴えたわけではない。

問 10 正解は①。

- ① テクノロジーの意義については、Aは3番目の発言のなかで「規格化されたテクノロジーの力に頼っていたら、型にはまった発想にしかならない」と否定的である。またAは、最後の発言で受け手についても「メディアから情報を受け取って消費しているだけ」と評価していない。
- ② 「他者と意見を交換し合うことには積極的な意義を認めない」が誤り。Aは4番目の発言のなかで、むしろ意見のやりとりは大事だと述べている。
- ③ 「小数意見の持ち主こそが芸術の能動的な担い手になることができる」が誤り。Bは、特に少数意見の意義を強調しているわけではない。
- ④ 「ある作品が真の芸術と言えるかどうかについては、多くの人々の意見を集約することで判定できる」が誤り。Bは「真の芸術かどうかなんて、どうでもいい」と述べている。

第2問 源流思想分野

問 1 正解は③。

- ③ 旧約聖書の出エジプト記に見られるモーセの十戒には、盗みを禁じる規定(第8箇条)や隣人の家を欲することを禁じる規定(第10箇条)などがある。
- ① ソクラテスにおいて「徳」とは魂をすぐれたものにすることであり、これは金銭欲のようなものとはまったく異なる。そして幸福は、金銭欲のようなものに囚われることなく徳を追求することによって可能になるとされる(福德一致)。
- ② イスラーム教では利子を得ることが厳しく禁じられており、今日でも利子をとらない独特のイスラーム金融と呼ばれる仕組みがある。
- ④ 仏教で所有欲が戒められているという点は正しいが、仏教では苦行が否定されている。苦行と快樂の間にある中道をいくことが求められている。

問 2 正解は②。

- ② アウグスティヌスは、人間の救いがかつて神の恩寵(恵み、愛)によるものであることを強調するとともに、教会が地上の国における神の国の代理であると説いた。
- ①③ 神の恩寵は一方的に与えられ、かつ与えられるかどうかは予め決定されているものとした。善行や信仰によって恩寵を得ることができるという記述は誤り。
- ④ 教会による贖宥状の販売を批判したのは宗教改革のルター。

問 3 正解は⑦。

- ア 誤文。イスラーム教ではムハンマドが最後の預言者であるとされているので、その

後継者であるカリフは預言者ではあり得ない。

イ 誤文。イスラーム教の共同体であるウンマは**政教一致**を基本としている。

ウ 正文。イスラーム教では「**神の子**」という概念は否定される。したがって、イエスはムハンマドに先行する預言者であるとはされるものの、ムハンマドと同様に神の子ではないとされる。

問 4 正解は③。

- ③ バラモン教やウパニシャッド哲学では、生あるものはすべてその業(カルマ)に応じて転生するという**輪廻思想**が信じられており、この信念がカースト制を支えている。
- ① ウパニシャッド哲学では、自己の本質であるアートマン(我)が宇宙の本質であるブラフマン(梵)と一体であるという真理(**梵我一如**)を悟ることで輪廻から解脱できるとされる。
- ② 「**六師外道**」との批判はバラモン教によるものではなく、仏教によるもの。ヴェーダを批判する点ではブッダも六師外道も同じであるが、仏教から見て異端であることから「外道」と呼ばれた。
- ④ バラモン教は**多神教**である。

問 5 正解は②。

- a ストア派はロゴス(理性)において人間が平等であるとして「**世界市民主義**」を説いた。「**地球全体主義**」は地球の有限性を訴える環境倫理の立場。
- b グロティウスが確立した「**自然法**」は、普遍的に妥当する自然法の根拠を理性に求める点で、ストア派を継承するものであったと言える。「**実定法**」は人為的に制定された法で、自然法の対義語。
- c 新プラトン主義を代表する哲学者は「**プロティノス**」。「**セネカ**」は古代ローマにおけるストア派の代表的哲学者である。

問 6 正解は②。

- ② 古代ギリシアの自然哲学者の一人**パルメニデス**は、有と無を峻別し、一切の運動を否定した。
- ① 後半が誤っている。古代ギリシアの自然哲学者**ヘラクレイトス**は、万物の生成変化のうちに見られる法則性をロゴスと呼び、そこに調和した秩序が成立していると論じた。
- ③ **イデアの世界**を「**知ることができない**」との点が誤り。**プラトン**は、**イデア**の影である個物に出会うことを契機として、**イデア**を想起することができると考えた。

- ④ ローマ帝国の皇帝であったマルクス・アウレリウスは、原子論ではなくストア派の哲学を信奉した。

問7 正解は④。

- ④ 今の儒者は万物一体の立場から「土や泥をも仁しむ」ことを主張しているが、君子であれば物は愛さないし、種類や性質の異なるものを「むりやり一体にしようとするならば、造物者の意志に逆らう」ことになる、というのが資料文の趣旨。
- ① 兼愛説は異なるものを「むりやり一体にしようとする」教えとして批判されている。
- ② 昔の儒者と今の儒者への評価が逆である。
- ③ 今の儒者の万物一体説については「何ということでしょうか」と批判している。天主の教えも「万物が一体である」とするものではなく、「万物のあり方は様々」であるとする。

問8 正解は①。

- ① 誤文。確かに孔子は父母や家族への愛を強調するが、祖先への祭祀儀礼を批判したわけではない。一般に儒家は祖先崇拝を伝統としている。
- ② 正文。儒家における仁は孝悌の家族愛が基本であり、人類普遍への愛ではない。
- ③ 正文。孟子は五つの人間関係を五倫としてまとめた。父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信である。
- ④ 正文。朱子学では、天下を平らかにすることが個人の修養や家族の和合などの延長に位置づけられ、「修身・齐家・治国・平天下」と言われた。

問9 正解は④。

- ④ 第2段落で言及されているキリスト教、イスラーム教、仏教は、差別の残る現実を超えた平等を説いたと言え、第3段落で言及されているプラトンと孟子は、社会の役割分担に基づく調和を説いたと言える。
- ① 「その目標がこの世では実現できるはずもないことが当初から理解されており」という内容はリード文にない。
- ② 「現実社会の貧困や差別を根本的になくさないかぎり、救済は成立しないとする思想がある」が誤り。特にキリスト教や仏教については、万人の平等は説くが、目指す方向性はあくまで魂の救済であるので、必ずしも現実社会の貧困や差別を根本的になくすことを目指すわけではない。
- ③ 第2文がおかしい。本文で紹介されている思想家のなかにも、統治者への批判を行った者は少なくない。

第3問 日本思想分野

問1 20 正解は①。

- ① 仏教伝来当初、日本で仏は「^{あだしくにのかみ}異国神」と呼ばれた。また、平安時代頃には、神は仏が仮の姿として現れたものであるとする**本地垂迹説**が広まった。
- ② アマテラスはもともと「唯一絶対の尊い神」と考えられていない。また仏がアマテラスの化身であるという**反本地垂迹説**が現れたのは鎌倉時代になってからである。
- ③ 後半の記述がおかしい。②の解説参照。
- ④ 後半の記述がおかしい。日本では早い段階から、仏と神を一体に理解する**神仏習合**が一般的であった。

問2 21 正解は③。

- ③ **最澄**は平等主義を強調する『法華経』を信奉し、生きとし生けるすべての者が成仏できるとの「^{いっさいしゅじょう}一切衆生 ^{しつうぶつしょう}悉有仏性」を説いた。
- ① 「^{おんりえど}厭離穢土 ^{こんぐ}欣求浄土」は平安末期の僧・**源信**が説いた浄土信仰の標語。
- ② 「即身成仏」は、生きてままで成仏できるとする、**空海**の立場。
- ④ 「則天去私」は、小さな自我を離れ、大いなる天にすべてをゆだねるという、**夏目漱石**の最晩年の境地。

問3 22 正解は⑦。

- ア 誤文。**法然**は、誰もがひたすら「南無阿弥陀仏」と唱えることで、阿弥陀仏のいる西方極楽浄土に往生できると説いた。
- イ 誤文。**道元**はひたすら坐禅するべきことを主張し、公案は不要だとされた。
- ウ 正文。**栄西**は、坐禅とともに戒律も重視し、禅が国家を安寧にするものであるとする『興禅護国論』を著した。

問4 23 正解は②。

- ② 厳格な修養主義を説いた朱子学者・**山崎闇斎**は、内に対する敬と、外に対する義を強調した。垂加神道を開いたことでも知られる。
- ① 最後の部分「時期・場所・身分に応じた道徳的実践(時・処・位)」が誤り。これは朱子学と対立した**陽明学**の態度である。
- ③ **貝原益軒**ではなく、**雨森芳洲**についての記述。
- ④ **佐久間象山**は「東洋道徳、西洋芸術」を謳い、技術においては西洋のものを取り入れつつ、道徳においては儒学を保持すべきだと考えた。

問 5 24 正解は②。

- ② 朱子学が忠実に経書を読んだものではないという点については、資料文3行目以下で、朱子学は「古聖人の書を文面のままに解したる物にてはこれ無く」、「その見識にて経書を捌き申されたる物」であるとされている。また朱子学が偏狭な人間になるという点については、資料文末尾近くで「人柄悪しく成り」と述べられている。荻生徂徠は古文辞学を唱え、原典に戻ることを説いた。
- ① 朱子学が「古代の語義を尊重し」がおかしい。②解説参照。
- ③ 朱子学が「経書の真意と自分の考えとを比較」がおかしい。比較しているのではなく、自分の見識によって経書を恣意的に解釈している点が問題とされる。
- ④ 「是非善悪の区別を無視し、自分勝手に振る舞う傾向を助長する」がおかしい。資料文6行目以下で、むしろ徂徠は「是非正邪の差別」がいきなりすぎてしまうことを懸念している。

問 6 25 正解は①。

- ① 真言宗の僧・契沖^{けいちゅう}は、『万葉集』を実証的に研究し、その注釈書として『万葉代匠記』を著した。
- ② 「儒学・仏教・神道を通して己の理想的な心のあり方を究明する心学」とは、町人道德を説いた石田梅岩の石門心学のこと。
- ③ 本居宣長は、「ありのままの感情」を「抑制」するべきではなく、そのまま表現するべきとした。
- ④ 後半の「理想世界が差別と搾取の世界へ転じた」との記述は、自然世と法世についての安藤昌益の主張。

問 7 26 正解は⑤。

- a 明六社のメンバーの1人である中村正直は、J.S. ミルの『自由論』を翻訳した『自由之理』を発表した。『私の個人主義』は夏目漱石の講演録。
- b 民権思想の代表者・中江兆民は、著書『三酔人経綸問答』のなかで、上から与えられた「恩賜的民権」を育てていくことで、英仏のように人民が勝ち取った「恢復的民権」と同様のものへと実質化していくべきだと論じた。
- c 陸羯南^{くがくなん}は三宅雪嶺とともに政府の欧化政策に反対の論陣を張ったジャーナリスト。徳富蘇峰も同じく政府の欧化政策に反対したジャーナリストだが、彼は政府の政策を貴族的欧化主義として批判し、これに民衆的欧化主義を対置し、平民主義を掲げた。

問8 27 正解は④。

- ④ 柳宗悦^{むねよし}は名もなき職工の手になる日用品に「用の美」があるとして、それら「民芸」の意義を強調し、収集に努めた。
- ① 折口信夫についての記述。
- ② 沖縄民俗学を確立した伊波普猷^{いはふゆう}についての記述。
- ③ 哲学者・九鬼周造^{くき}についての記述。

問9 28 正解は①。

- ① 本文で紹介されている源信、荻生徂徠、岡倉天心は、いずれも外来の思想や文化を背景に思索を開始した。しかし彼らは外来の思想や文化を無批判に受け入れたのではなく、それらを批判的に検討することにより、他国とも共有しうる思索となり得た、というのが本文の趣旨である。
- ② 本文で紹介されている思想家たちは、外来の思想・文化を無批判に受け入れ「模倣」してきたわけではない。
- ③ 本文で紹介されている思想家たちは、外来の思想・文化を「自国の価値観に基づいて」検討したわけではない。また彼らは「日本固有の思想や文化」を発見したのではなく、他国とも共有し得る多様な思索を展開したのである。
- ④ 後半が誤り。本文で紹介されている思想家たちは、必ずしも「外来思想の有する普遍性を賞賛」したわけではない。

第4問 西洋近現代思想分野

問1 29 正解は①。

- ① ルネサンス期を代表するモラリスト・モンテーニュは、『エッセー(随想録)』のなかで、「私は何を知っているか(ク・セ・ジュ)」と自問し、自己の偏見や独断を吟味するとともに、寛容の精神を説いた。
- ② 『道徳感情論』を書いたアダム・スミスの立場についての記述。
- ③ 「生の悲惨さ」を背景に「気晴らし」に逃避する人間の性を指摘したのは、『パンセ』を書いたパスカル。
- ④ ピコ・デラ・ミランドラを念頭に置いた記述。人は自由意志によって「墮落した下等な被造物」になり得るが、自由意志によって神的な存在にもなり得るとされる。

問2 30 正解は④。

- ④ 学問を確実な土台の上に基礎づけることを自身の使命としたデカルトは、「明晰判明」であることだけが疑い得ない真理の基準であるとして、そうでないような事柄はすべ

てしりぞける方法的懐疑を遂行した。

- ① イギリス経験論の祖・ベーコンについての記述である。
- ② 進化論を提唱したダーウィンについての記述である。
- ③ 経験論を徹底し、生得観念を否定する立場から、人間の心が最初は白紙(タブラ・ラサ)であったと述べたのは、ロックである。

問 3 31 正解は⑤。

ア 誤文。前半はよいが、後半がおかしい。サルトルは、人間が完全に自由な存在であるとの前提から、自らの責任のもとに自己を社会の中に投げ込むアンガージュマンを主張した。結果としてどのような生き方をするかは各自の問題であって、「各自の利益と幸福を追求」すべきだとはされない。

イ 正文。社会契約論者のルソーによれば、人間は自然状態において自由で平等であるが、孤立して協力するということを知らない。そこでそうした自然的自由を放棄して国家を創設し、公共の利益を目指す一般意志に従おうとすることにおいて、人間は共同体のメンバーとなり、市民的(社会的)自由を獲得するとされる。

ウ 正文。社会契約論者のホッブズによれば、人間は自然状態において自己保存の権利を持っている。しかしこれらが恣意的に行使されることで戦争状態が起こってしまうことから、そうした事態を防ぐために国家が創設されたとされる。

問 4 32 正解は②。

② 資料文では、人が自分の行為を正当化して言い逃れをしようとするときであっても、自分を告発する「原告としての自分」による「自責や非難」、そして「後悔」を免れられないことが述べられている。ここで言われている「原告としての自分」が、良心を意味する「内なる声」である。カントは善意志に基づく行為が善であるとする**動機主義**をとった。

① 資料文では、人は悪事について言い訳することもできるとしつつ(最初の5行)、「しかし」以下で、それらが言い訳でしかないことを告発する自分を見出さざるをえないと続けており、こちらが著者の言いたいことである。

③ 不正を後悔するのは「遠い過去」のことに限られない。

④ 道徳法則とは誰もが守るべき道徳上の普遍的ルールであり、各人の良心に訴えかけるものである。自分に言い訳をするためのものではない。

問 5 33 正解は①。

ア 『ユートピア』の著者であり、エラスムスの親友としても知られたトマス・モアにつ

いての記述。サン＝シモンは、産業者による社会を構想した空想的社会主義者。

イ サルトルの私生活上のパートナーであったボーヴォワールについての記述。引用されているのは、著書『第二の性』の有名な語句。シモーヌ・ヴェイユは、34歳で亡くなった20世紀前半の女性哲学者。過酷な工場労働を体験し、スペイン内戦の義勇軍に参加するなど、実体験を基にした思索を続けた。

ウ 20世紀アメリカを代表する哲学者ロールズについての記述。不遇な人々を抑圧しかねない功利主義を批判する「公正としての正義」を理論化した。サンデルは、ロールズの正義論が「負荷なき自己」を前提にしているとして批判したコミュニタリアニズムの代表的哲学者。

問6 34 正解は③。

- ③ 20世紀の科学哲学者クーンによれば、あらゆる科学的営みは一定のパラダイム(理論的枠組)のなかで行われるが、個々の事実とパラダイムとの整合性がとれなくなるとときにパラダイム転換(科学革命)が生じるとされる。
- ① クーンによると、科学の危機は、実験のやり直しによってではなく、パラダイムの転換によって乗り越えられる。
- ② あらゆる事象を説明する普遍的理論を放棄し、具体的状況に即した「小さな物語」の重要性を説いたのは、ポストモダン思想の牽引者であるリオタール。
- ④ 分析哲学においてネオ・プラグマティズムと呼ばれる流れを作った20世紀アメリカのクワインについての記述。

問7 35 正解は⑥。

- a 「道具主義」が入る。デューイは知性を問題解決のための道具とみなしており、自身の立場を道具主義と呼んだ。「道具的理性」は、フランクフルト学派のホルクハイマーらが近代的理性を批判する際に用いた概念。
- b 「創造的知性」が入る。デューイは問題解決能力としての知性を「創造的知性」と呼んだ。「投企」は実存主義の思想家たちが世界の状況のなかに自らを投げ込むことを指す。
- c 『民主主義と教育』が入る。デューイは教育思想にも多大な影響を与えている。『幼児期と社会』はエリクソンの著書。

問8 36 正解は②。

- ② 現象学を創始し、ハイデガーの師としても知られるフッサールは、実在についての素朴な信念について判断停止(エポケー)し、それらが意識にどのように現れているか

を詳細に記述することに徹すべきだと論じた。

- ① ハイデガーの思想についての記述。
- ③ 前半はニーチェ、後半は作家カミュについての記述。
- ④ 3行目が誤り。フッサールの現象学は、不確実であった学問を確実な土台の上に据え直そうとする営みである。

問9 37 正解は③。

- ③ 第1段落で自然の探求と人間の探求が密接に関わっていることが指摘され、第1段落および最終段落で文系・理系の区別を自明視することなく自然と関わる人間について探求すべきであると論じられている。
- ① 「最も確実な自然科学を模範」として学問を再編すべきだというのは、本文の趣旨と正反対である。
- ② 人間に対する考察の独自性を際立たせるというのは、自然科学との「密接な関係のなかで」人間や社会が考察されてきたという本文の趣旨と合わない。
- ④ 「時代に左右されない人間の本質論」については本文で触れられていないし、エンゲルスらの立場と矛盾する。